

# 市大広報

## 大阪市立大学

2004年 第55号

特集

### 医学研究科のCOEプログラム

現代人の「疲労」を克服する！



市大探訪／教員紹介 渡邊 恭良教授(医学研究科)、加茂 利男教授(法学研究科)

ミニ特集 医学部看護学科 変わらざる「慈愛の光」とも継ぎて

知っ得！ 社会保障科学「公的年金制度の改正 マクロ経済スライド制とは何か」坂口正之教授(生活科学研究科)

市大・入学Navii／入試関連情報／ 学園あらかると

トピックス 全学共通教育棟完成！ チカノパー博士イニシアルノーベル化学賞受賞！

公開講座情報

## 経営学研究科・商学部

### 125年目の実学の府

1880年開設の大阪商業講習所を源流とする商学部は、来年125周年。この間日本最大最古の公立大学として、また日本の商学・経営学・会計学をリードしてきた「三商大」の角として、商都大阪の「知」そして「智」の遺伝子を受け継いできました。今後も人材育成とビジネス研究を通じて、わたくしたちは大阪と関西の産業・経済の発展に貢献します。



菅山 直孝 さん

平成5年3月  
商学部商学科卒  
新日本監査法人マネージャー  
公認会計士

市大商学部で様々なビジネスについて学んだことは、現在の仕事に大変役立っています。会計士は多くの会社に関わりませんが、迅速にその会社の経営状態を見抜くためには、ビジネスを理解していることが不可欠だからです。学生時代素晴らしい環境にいたのだと今頃痛感しています。

## 理学研究科・理学部

### 自然の何故を問う

— 極微の世界から宇宙の彼方まで

私たちは、自然界を律する真理の解明をめざして、研究・教育に励んでいます。理学研究科・理学部は、世界に誇れる最先端の研究業績をあげるとともに、密度が高ききめ細かい教育を通して、自然の基本原理の理解を基礎とした高い研究能力を持ち、その応用展開をも柔軟に推進できる人材を世に送り出しています。



宇野 久仁子 さん

平成16年3月  
大学院後期博士課程生物地球系専攻修了  
キリンビール基盤技術研究所

私は、高校時代に読んだ「植物生理学」に感銘を受け、著者の増田芳雄先生がおられた市大理学部に入學しました。多くの人達に支えられて博士号を取得し、現在の仕事に就いています。きっかけとなったこの本と市大での学生生活は、私の研究と心の支えです。

国立大学のコピーではない！ 国内最大の公立大学 大都會のパークユニバーシティ



## 大阪市立大学

大阪市立大学ホームページ <http://www.osaka-cu.ac.jp/>  
広報ホームページ <http://koho.osaka-cu.ac.jp/>  
お問い合わせ [koho@osaka-cu.ac.jp](mailto:koho@osaka-cu.ac.jp)

協賛  
(財)大阪市立大学後援会  
大阪市立大学育桜会(教育後援会)  
有恒会・理学部同窓会  
工学部同窓会・医学部同窓会  
生活科学部同窓会

発行  
大阪市立大学事務局  
〒558-8585  
大阪市住吉区杉本3-3-138  
TEL 06-6605-2011  
FAX 06-6692-1295



現代人の「疲労」を克服する！

COE採択！

平成16年度21世紀COEプログラム注1「革新的な学術分野」に医学研究科から申請した「疲労克服研究教育拠点の形成」が採択されました。

本年度は、過去2年間の学術分野・領域内での公募とは異なり、「革新的な学術分野」という、文系・理系のすべてを含む極めて広範囲なテーマで審査が行われました。日本全国の大学から320件の申請（公立大学からは34件）があり7月下旬に28件が採択されました。競争率11.4倍（平成14年度は4.1倍、平成15年度は4.6倍）、公立大学ではただ1件の採択です。大阪市立大学としては、平成14年度の文学研究科、平成15年度の理学研究科に続き3年連続採択という快挙です。新聞報道などでも、本学の「疲労克服研究教育拠点」が大きく取り上げられ、多くの方の注目を浴びました。

平成16年度 21世紀COEプログラム 採択拠点

【分野：革新的な学術分野】

拠点のプログラム名称	機関名
トポロジー理工学の創成	北海道大学
海洋生命統御による食糧生産の革新	北海道大学
熱・生命システム相関学拠点創成	岩手大学
医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	東北大学
加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	群馬大学
持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点	千葉大学
言語から読み解くゲノムと生命システム	東京大学
次世代ユビキタス情報社会基盤の形成	東京大学
インスティテューショナル技術経営学	東京工業大学
エージェントベース社会システム科学の創出	東京工業大学
地球：人の住む惑星ができるまで	東京工業大学
ヨーロッパの革新的研究拠点	一橋大学
発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成	金沢大学
検証進化可能電子社会	北陸先端科学技術大学院大学
衛星生態学創生拠点	岐阜大学
ナノビジョンサイエンスの拠点創成	静岡大学
計算科学フロンティア	名古屋大学
昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生	京都大学
細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	大阪大学
古代日本形成の特質解明の研究教育拠点	奈良女子大学
染色体工学技術開発の拠点形成	鳥取大学
超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界	広島大学
サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析	琉球大学
疲労克服研究教育拠点の形成	大阪市立大学
日本漢文学研究の世界的拠点の構築	二松学舎大学
伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓	京都薬科大学
社会マネジメント・システム	高知工科大学
柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム	九州産業大学

疲労は、万人にとって身近な課題です。ことに、都市生活の持つ利便性の裏返しであると考えると、大阪のような大都市生活者は日々厳しいストレス荷重を強いられ、特に疲労にさいなまれて

いるといえます。大阪市立大学は「都市型総合大学」として都市生活者のために新たな学問分野を切り開くことを責務と考えており、本COE拠点に対しても内外から大きな期待が寄せられています。

現代人と疲労

現代ストレス社会は疲労に満ちています。この広報を読んでおられるあなたをはじめ、老若男女を問わず、驚くべき多数のヒトが疲労を訴えています。1999年の旧厚生省疲労調査班（木谷照夫班長）の調査によると、約60%

皆さんは、「疲労なんて研究できるのか？」と思われていたかもしれません。疲労は、これまで「休めば治る」と考えられてきましたが、実は生活習慣病、痛循環器疾患、感染症、アトピー等のアレルギー疾患等、様々な病気の前兆であって、いわゆる「万病の元」であり、将来への医療の確実な方向性である予知医療の中核となるべきものであります。加えて、病気による疲労倦怠感・薬の副作用としての疲労倦怠感など、現代の医療においても重要な問題であり、科学的な解析に基づく対処方法の樹立が必至となっています。

しかしながら、これまで、日常生活の中で感じている疲労感について、客観的に評価する適切な方法はなく、本格的な「疲労の科学・医学」は、本COE拠点リーダーの渡邊恭良教授（市大探訪・教員紹介参照）が班長をしていく文部科学省科学技術振興調整費による生活者ニーズ対応研究「疲労および疲労感の分子・神経メカニズムとその防御に関する研究」（平成11～16年度）が始まるまで国際的にも皆無でした。このことから、本研究拠点がいかに革新的な学術分野であるかということがお分かりいただけるかと思えます。

本学では、早くから、この身近な医学の問題である疲労に着目し、渡邊恭良教授、井上正康教授（分子病態学）、木山博資教授（機能細胞形態学）ら疲

労研究班が中心となって、疲労の科学的・医学的研究を進め、疲労度の客観的評価法注2と疲労のバイオマーカー注3を確立してきました。2002年6月には世界ではじめての疲労国際会議（会長：渡邊恭良教授）をスウェーデンで主催し、来年2月には第2回の国際会議を日本で主催することになっています。

疲労のメカニズム

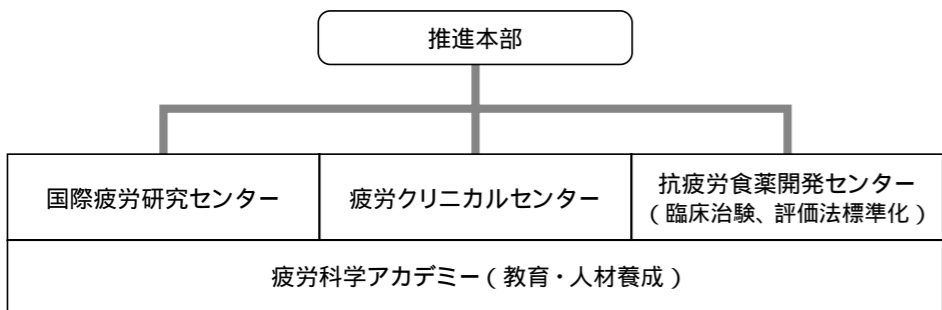
ところで、そもそも「疲労」の原因は何でしょうか？筋肉運動で乳酸は一過性に増加しますが、これは疲労の原因物質ではありません。運動性の疲労でも精神性の疲労でも、免疫サイトカインという一群のペプチドやセロトニンという神経伝達物質が、疲労・疲労感のメカニズムに深く関わっていることがこれまでの研究で分かってきました。疲労感を感じている脳の部位、疲労すると機能の落ち込む脳の部位がわかり、疲労神経回路の仮説を世界に先駆けて発表しています。また、末梢血管の動脈硬化度等の指標である加速度脈波を指先で測定し、解析することで、疲労度がかかり定量化され、血液中や唾液中の100以上の物質・因子の測定により、アミノ酸や新規ペプチドをはじめ、多くの生理活性物質が、原因別疲労のパートナー解析に役立つことがわかってきました。これらの疲労バイオマーカー

を用いて、疲労回復、過労予防に効果のある素材や食品・医薬品を開発する事ができてきました。

疲労克服推進本部

本COEプログラムでは、世界に先駆けて「疲労の分子論的実体を解明し、疲労克服法を創成すること」を目指し、

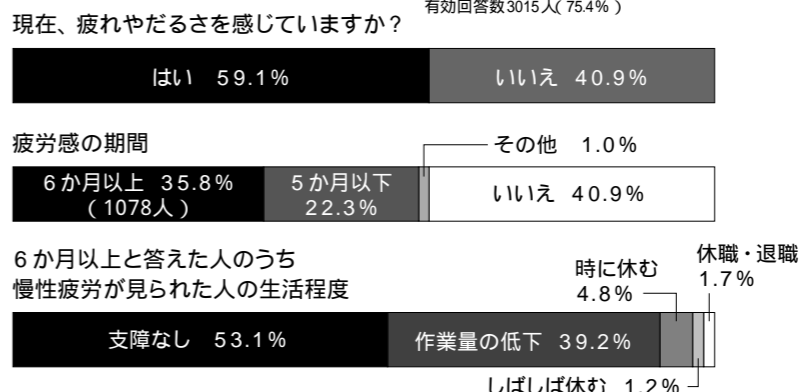
COE疲労克服研究教育拠点



のヒトが現在疲れていると答え、そのうちの実に約60%が半年以上続く慢性疲労に悩み、約50%に能率低下や不登校・休業などが認められました。これは、1984年の総理府の統計と比べると、慢性疲労人口が約2倍になったことを示しています。

慢性疲労についての疫学調査

厚生省疲労研究班1999年調べ。対象4000人(15～65歳)、有効回答数3015人(75.4%)



革新的な学術分野の創成の場、かつ名実共に国際的な基地として「疲労克服研究教育拠点」の形成を進めることを主眼としています。

25の大学等研究機関が参加している前述の文部科学省の疲労研究班の研究成果を進展させ、本研究科の特徴的な研究教育を結集し、疲労克服研究教育推進本部のもと、1 国際疲労研究センター、2 疲労クリニカルセンター、3 抗疲労食薬開発センターの3組織を構成して研究を推進します。

1 国際疲労研究センター

これまでに疲労研究班で得られた様々な研究成果に基づき、国内外からの研究者の集約的参加可能な国際疲労研究センターを設立し、さらなる疲労研究を推し進めます。

また、東京大学先端ゲノム研究センター（油谷浩幸教授）との共同研究である疲労・易疲労性遺伝子研究、スウェーデンカロリンスカ研究所との疲労に関わる双生児研究、企業との疲労メタボロミクス研究等を分子イメージング研究との融合のもと、さらに網羅的に発展させる予定です。

疲労の客観的定量評価法・バイオマーカーが確立し、応用可能な状態になれば、科学的根拠に基づく疲労治療、医薬品・健康食品の開発が可能になると、期待されています。

2 疲労クリニカルセンター  
！ 疲労外来、 疲労検査センター、 抗疲労食薬治験センターの3つを柱とする疲労クリニカルセンターを創成します。

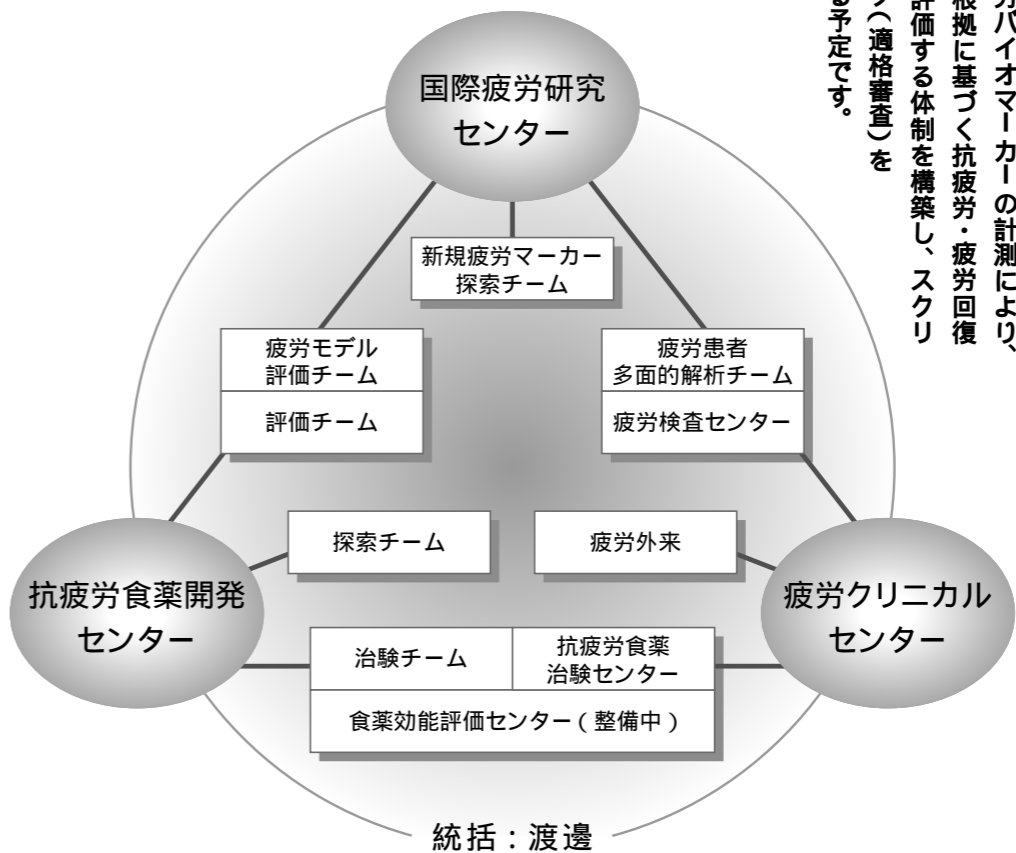
疲労外来では、疲労患者さんを診察できる人材を育成するとともに、健康者・生活習慣病患者を対象に疾患と疲労度の関連等を検索してデータベース作りを行います。すでに、平成15年4月から慢性疲労の診断・研究に関する世界的権威の倉恒弘彦教授(関西福祉科学大学健康科学科)を本医学研究科の客員教授として招聘しており、本プログラムの研究協力者にもなっています。

「 疲労検査センターでは本学が世界をリードする種々の画像検査を駆使し、疲労・過労と虚血性疾患の関連の研究を中心に、疲労疾患と痛みとの関連、疲労骨折や疲労と慢性炎症性・アレルギー性疾患についても研究を進めます。

3 抗疲労食薬開発センター

抗疲労食薬開発、 抗疲労食薬の評価、 抗疲労食薬の治験を進める抗疲労食薬開発センターを開発します。

に関してはずす、新産業創生研究センターにおける産学官連携事業として進めており、疲労度の客観的評価法と疲労バイオマーカーの計測により科学的根拠に基づく抗疲労・疲労回復食品を評価する体制を構築し、スクリーニング(適格審査)を開始する予定です。



疲労の分子神経メカニズムの解明を進めることにより、医療・食薬の開発をすすめる、疲労に悩む21世紀の人類に福音をもたらすことが、私たちの使命であると考えています。

# 市大探訪 教員紹介

写真・橋本文彦(経済学研究科助教授)

医学研究科教授

わた なべ やす よし

# 渡邊 恭良

京都大学大学院医学研究科博士課程修了、医学博士。  
専門：神経科学、ポジトロン医学、分子イメージング・システム神経科学。  
「疲れたばなしの(自称)『世界的『疲労』研究者である。石川県出身、53歳。」

現在の研究主題

現在、 疲労の分子神経メカニズム 脳発達障害 ポジトロンイメージングシステム グラノー(PEIT)を用いた分子イメージング 新規プロホモサイクリン受容体と神経細胞保護の4課題を中心に、研究員や大学院生、研究補助員とともに昼夜分かたず、鋭意研究を進めています。特に、疲労の分子神経メカニズムの研究に関して、文部科学省の班研究の代表者として、平成11年からの6年間、疲労の

医学的研究を組織し、疲労感に関わる中枢、疲労度の測定指標、疲労回復素材の検定等々の研究で国際的にも認知されてきました。この研究を、平成16年度の21世紀COEプログラム、革新的な学術分野の拠点リーダーとして、「疲労克服研究教育拠点の形成」の採択に結びつけたわけです。(特集の項参照)  
今年10月に行われた米国神経科学会議(2万5千人以上が集まるこの分野の国際会議として一番中心的なもの)でも、我々の発表を核として初めて「Exercise

and fatigue (運動と疲労)について研究ができました。「精神的疲労」においては我々の研究が世界をリードしています。今後さらなる世界の疲労研究、臨床、抗疲労食品・薬品開発の拠点形成を行います。  
一方、ポジトロンイメージングシステム(PEIT)等を用いた分子イメージング研究では、1985年からほぼ20年間、方法論の開発とそれらを用いた応用研究を行ってきました。分子イメージングとは、分子レベルで生体の動きを調べる研究です。特に、1993年からの5年間はスウェーデンのウプサラ大学との国際共同研究、現科学技術振興機構の国際共同研究プロジェクトを行い、1998年から4年間は、日本学術振興会の未来開拓学術研究推進事業のプロジェクトを率いてこの分野の日本代表として、多数の研究論文等の発表を行ってきました。  
2002年にノーベル化学賞を受賞された野依良治先生(現理化学研究所理事長)との共同研究によるプロスタグランジン受容体のヒト脳でのPET研究や、慢性疲労症候群の患者さんの脳内神経伝達物質異常などを明らかにしたのもこの頃です。  
これまで、このような先駆的な研究を行ってきましたが、ようやく最近になり生体で分子を追跡することの必要性が認められて、昨年度から理化学研究所と放射線医学総合研究所の共催する「分子イメージング研究検討会」の委員長を



注1 21世紀COEプログラム

国際競争力のある世界的研究教育拠点をつくるため、文部科学省が平成14年度から開始した支援プログラム。採択された拠点には文部科学省から重点的な研究費が配分される。

注2 客観的評価法

心理的判断ではなく、数値などの具体的な事象により客観的に評価する手法。

注3 バイオマーカー

人が発する生体情報を数値化・定量化した指標。例えば血糖値は糖尿病診断に使用するバイオマーカーである。

注4 治験

新薬開発のため、治療を兼ねて試験的に薬剤を使用すること。

務め、「分子イメージング」を17年度からの国の重点研究として政策化することになりました。この分野は、昨年よりアメリカ、ヨーロッパでも大きな予算をかけた取り組みが始まっており、日本も益々力かりとした戦略を持ち、頑張っていくかなければなりません。以下、なぜ、このような研究に携わってきたのか、私のこの夢とともに私見を述べます。

医学 生物学研究の進歩と先取性

医学は、実学です。実際、我々の目の前には、我々も含めた病気の予備軍と病気に罹患した患者さんがいます。病状を把握し、あるいは、病気に至る機序を解明することが治療を考える第1歩であるわけですが、現在までの大きな医学の進歩は、生物学の進歩とともにあります。20世紀後半は、遺伝の仕組み、遺伝子の様々な事柄がわかった。「生物学の爆発的進歩」の時期でした。私が大学生だったころにようやくDNAの成り立ちや配列がわかってきたのですが、その後約30年で、皆さんが良くご存じのDNAの全体配列の解読がなされたわけです。そのような急速な進歩の中で、医学も単なる現象論や形(潰瘍とか腫瘍とか)でなく、分子でもって語られるようになってきたわけです。

その中で、我々基礎医学者の研究というのは、生物学より医学、すなわちヒトや病気を最終目標にしたものでなければ

はなりません。生物学はミテランジェロのような名人が大理石に埋もれている像を神懸かり的に彫り出すのと同様に、生物が元々持っている精巧な原理や精緻な分子制御といったものを愚鈍な人間が生懸命に毎日精進して掘り起こすようなものです。既にあるが、人間がまだ知り得ないものを追究するという研究です。ここでは、全体をパーツに分解し、その仕組みを観測することも可能です。ところが医学は、「分解」に限度があります。特に病状の進行とか、合併症とか、時期により観察していったものが変化していく場合は本当に実際に起こっていることを知る事が難しいのです。つまり、20世紀後半から21世紀にかけて、我々がなしてきた生物学の進歩から、もう新しい技術、それは現在進行形で、我々の体内で起こっている現象を分子レベルで見ると、把握することなのです。生きたままの対象、特に下での生体分子イメージングといことは、生物学・医学の超えるべき次の大きな山脈なのです。すべてのゲノムから発現するタ



ンパク質やその機能を、対象が生きていて様々な機能をしている時に対象を傷つけることなく測定できれば、我々医学者の夢がかなうわけです。

もう一つの夢は、実現すること

医学は実学であると言ってきました。実際病気が、患者さんという対象があります。現在は、病気になる前の予備軍を早く健康にし、健康寿命を延ばすことの重要性が話題になります。疲労は、その最たるもので、我々現代社会の住人は、多くのストレスから過労状態です。日本社会は特に子供や若者までに疲れが見えるところが社会的な問題です。疲労を何とかくい止めるには、もちろん、社会構造の変化や個人のメンタルの変更が必要ですが、改善の策として、たとえば、抗疲労や疲労回復素材の開発があります。端的にいうと、食品・飲料・生活用品などに反映されます。現在、抗疲労、疲労回復を謳っている商品の多くには残念ながら、科学的根拠がありません。現在先ほどのCOEプログラムなどにおいて、抗疲労や疲労回復素材の開発を行っており、医学研究を本当に予知医学研究にする<sup>1</sup>、即ち水際で病気の前兆をくい止めることを課題にしています。

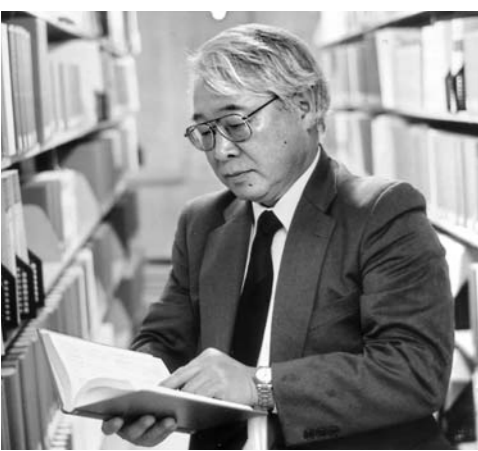
<sup>1</sup> ポジトロンエミッショントモグラフィ (PET)：陽電子放射線断層装置、陽電子を放出する検査薬を体内に注入することにより、細胞の活動状態や代謝を画像化する事ができる。  
<sup>2</sup> プロスタサイクロン、プロスタグランジン：生体調節ホルモンの一種

いまの私はマクロ政治学のプロとはとてもいえないのですが、ときどきメディアの場を借りて選挙や政局の観察をしたり、大学院のゼミで院生といっしょに政治学のフロンティアの情報を仕入れるようにはしています。

歴史の旅から世界の旅へ

NYから大阪に帰って間もなく、たまたま関一市長の日記や資料の発見に立ち会うことになり、史料の解説に三年付き合いました。日記に出てくるたった一人の人物の正体を突き止めるためだけに、数人が丸一日を費やしたこともあり、歴史家の仕事の大変さを思い知らされました。あわせて、二〇世紀に生まれた改良主義的な都市政策思想の世界的な共通性に気づかされ、このテーマで本を書こうかとも思ったのですが、果たせないうちにまたまた時代の波に流されてしまいました。

八〇年代後半からのグローバル化・シオンのなかで、私のようなドメスティック人間も国際的な共同研究に引っぱり込まれ、「世界都市」や「地方分権」などの研究で、世界を渡り歩く経験をしました。ニューヨークしかみえていなかった私が、ロンドン、パリはもちろんのこと、ベネチア、ヘルシンキ、バンコク、メルボルンや、香港、ソウルなどを次々に見聞して、都市を



見る目に幅ができた気がします。研究スタイルもずいぶん変わりました。これまで本で名を知っていただけの外国の都市研究者から、Eメールで「会議に来ないか」とか「一緒に研究プロジェクトを立ち上げよう」とか言ってくるようになり、彼らと友人として付き合ううちに、思考のパターンが変わってきたのを感じます。文化のギャップや言葉のハンディキャップをあまり気にせずに議論ができるようになった気がするのです。自然科学では当たり前ですが、社会科学では新しい変化で、それが自分の中にも入ってきたようです。

COEのような大プロジェクトもいのですが、小さい国際的研究ネットワークを日常的に沢山つくっていくことも、「国際通用性」のある学問を形成する方法だという気がします。

法学研究科教授

# 加茂利男



大阪市立大学法学部卒 法学士  
政治学・都市研究・地方自治。  
市大が誇る都市研究の第一人者である。  
和歌山県出身。59歳。

政治学から都市論へ

はじめは現代政治学の理論を勉強するつもりで、その方面の論文や本を書いていた。ところが、二〇代後半に当時の都市問題や自治体問題の噴出に遭遇して浮気心を起こし、この分野に首を突っ込んでしまいました。さらに決定的だったのは、七八年から八〇年までの二年間ニューヨーク(NY)に留学したことです。NYという町は、なんといいことはない街の一角に面白いミニシアターや古い古本屋があったり、小さい芝居小屋をのぞいたら堂々

たるミニシアターをやっていたりと、歩いているだけで無数の発見がある町だった。「都市とはこんなに面白いものだったのか」と目が覚める思いをしたものです。

政治の面でも、当時最悪の財政危機に陥ったNY市政の急速な保守化を間近に見聞して、転換期の世界の縮図をみた思いで鳥肌が立ちました。

というわけで都市や地域といったミクロの世界からマクロの政治を遠望するような研究が面白くなり、いつしか政治学と都市研究という「二足のワラジ」を履いたわけです。

私のベースキャンプ…  
都市問題資料センターと法学部

この十数年、私の研究の拠り所は、都市問題資料センターでした。都市関連の学術ジャーナルがそろっているのが、私にはなによりありがたいことです。また、ここで市大の都市研究の優れた先達・同僚たちと部局を超えて出会えたことも、大きな財産になっています。できればこのセンターを苗床に、新しい市大の顔になる研究拠点が育たないものかと、ずっと考えています。

私を育ててくれたもう一つのホームは、法学部です。今日の大学改革には、「みんなで渡れば」式の付和雷同主義や、けじめのない既成事実主義がまかりとおっており(ロースクールも例外ではありません)、それだけにリーガルな手続き・ルール感覚は大切だと思っています。わが同僚たちは、その点ではなかなか意思堅固な人が多く、全学の会議でうるさがられているようですが、けっこうなことだと思えます。

政治学グループも捨てたものではありません。この十五年で計四年にわたって政治学会の理事長・事務局を擁した大学は、東大と市大だけです。それは市大の政治学スタッフが、少数ながら粒ぞろいの実力派だということが外から評価されているためでしょう。



農山村を旅して

都市の研究者である私がこの数年、国内では都市よりも農山村を歩いています。市町村合併問題で揺れる自治体を、北海道から沖縄まで100箇所以上訪ねたのです。

市町村合併と地方自治制度改革は、日本の未来を足元から左右するのではないが、という思いが強くなっています。過疎に耐えて日本の経済成長に人材を供給し、生態系のおおもとを守ってきた農山村から、村や町がなくなりがいなくなくなってきたとき、都市そのものが成り立つのか。都市研究者のちよっと文明的な問いです。

二特集  
「変わらざる。慈愛の光」  
ともし継ぎて  
医学部看護学科



医学部看護学科長  
長山 正義

医学部看護学科の起源は1923年に設立された市立南市民病院附設看護養成所まで遡ります。実質的には1949年に大阪市立医科大学の附属施設として設立された大阪市立医科大学厚生学院が始まりで、以降、大阪市立大学医学部附属厚生学院、大阪市立大学医学部附属看護専門学校を経て、1998年に3年制の看護学教育課程である看護短期大学が開学しました。

しかし、最近の医療の進歩や社会の変化には目を見張るものがあります。こうした動きに対応すべく、本年4月4年制の医学部看護学科を開設するにいたしました。

本学科では、大正、昭和、平成と80年以上の歴史と伝統をもつ「変わらざる。慈愛の光」とも継ぎて「の精神を引継ぎ、豊かな人間性と創造性を育む幅広い教養教育とともに、益々発展していく保健・医療・福祉の分野に

応じることができる実践的看護学教育を目指しています。また、保健師、看護師の養成とともに、学士の編入学制度や看護師の生涯教育の拠点としての看護師編入学制度を有していることが本学科の特徴の一つでもあります。教員は看護短期大学部から移行した26名に加え、特任教授2名が来月4月に就任する予定です。国際的な視野で21世紀の看護医療に貢献できる看護師の育成に加えて、研究面でも特色を出せるように最大限の努力を行います。

基礎看護学の演習風景

基礎看護学助教 山崎裕美子  
看護学内実習は1年生後期からのスタートです。健康障害基礎論では、障害の体験と援助の体験を実施しています。

車椅子で坂道やがたがた道を移動します。また目隠しして歩き、階段を上り下りし、様々な物に触れてみます。片手でバックの飲み物にストローを通し、飲んでみます。

模擬体験を通して健康障害のある人の感覚や気持ちに近づき、「なぜそうなるのか」「どのように看護するか」を模索していきます。



看護学科に入学して

看護学科1期生の平柳恵里さんと加藤ひとみさんに、お話をうかがいました。医療や福祉への関心を抱き、看護学科に入学しました。入学してから半年が過ぎ、後期の講義が始まったばかりです。前期の講義には、看護の専門科目が少なく、ほとんどが基礎科目でした。「学生生活は楽しいけど、また看護学を学んでいる実感がいいなあ」といった日々でした。

9月に入り、初めての臨地実習を体験しました。基礎看護学の早期体験実習です。「不安そうな患者さんに看護師さんが、ベッドの横でしゃがみこんで、『大丈夫?』って声をかけながら、寄り添っていたのが印象的でした。看護って大変そうって思ったけれど、患者さんの笑顔にふれ、遣り甲斐を感じました。(平柳さん)」「看護の仕事って、責任が重いなっ



加藤さん 平柳さん

これからは、専門的な知識や技術を身につけて、今後は患者さんを見ていくだけでなく、もっと接してみたいです。」と。2年生からは、看護の講義・演習・実習が目白押しです。お二人に、このご期待!

(インタビュー&文責  
基礎看護学 田中結華・  
精神看護学 實田 穂)

知って得 社会保障科学

公的年金制度の改正

マクロ経済スライド制とは何か



生活科学研究科  
坂口 正之 教授  
(社会保障科学)

公的年金制度が本年6月に改正されました。改正の主な目的は、負担と給付が明確な持続可能な制度の構築と、多様な生き方や働き方に対応した制度の構築にあります。

まず、改正内容についてみます。

- 1 国庫負担の段階的な引き上げ  
国民年金(基礎年金)の給付費は3分の2は現役世代で残り3分の1は国庫で負担されていますが、急速な少子高齢化の影響による現役世代の負担を緩和するために、国庫負担割合を段階的に2分の1まで引き上げます。その財源確保のために、税制の抜本的な見直し(増税)を行います。
- 2 保険料(率)の上限の法定化  
保険料は段階的に引き上げられ、2017年以降厚生年金は現在の13.58%から18.3%、国民年金は月1万3300

円から1万6900円に、法律により固定されます。

- 3 給付水準の切り下げと下限の設定  
現役世代の平均的所得に対する年金の給付水準を所得代替率といいますが、厚生年金のモデル世帯(夫の平均標準報酬月額が36万円、妻が40年間無就業)が受給する年金の所得代替率は59.3%ですが、保険料の固定化に伴い、この給付水準を今後切り下げる必要があります。しかし、この代替率が50%を上回る給付水準を確保するよう法律に明記されています。
- 4 マクロ経済スライド制の導入  
従来の給付水準の改定は年収から税金や社会保障料を差し引いた金額(可処分所得)の上昇率を指標としていました。つまり、賃金が上昇すれば年金も上昇する仕組みだったわけです。しかし、物価が上昇して人当たりの賃金が増えても、働きの総数が減少すれば社会全体の総賃金は減少してしまいます。そこで、社会全体の負担能力を反映させるために、国民所得や賃金総額などのマクロ経済的な指標の変化率に変更します。これは賃金・物価上昇分から働きの減少分(年金受給者の増加分を差し引いて計算する方法)で、実際には、従来の方法に対して今後は年率マイナス0.9%で給付水準が調整・減額される見込みです。

- 1 生活の多様化に対応する改革  
「LIFETIME」の主な改正内容をみます。  
在職老齢年金の緩和と対象の拡大

現在、働きながら受け取ることができ「在職老齢年金」は、65歳前半までは年金額の2割が律支給停止ですが、受給世代の就業意欲を阻害しないようにこれを廃止し、2005年4月実施(また60歳代後半の在職老齢年金を70歳以上の在職者にも拡大し、年金を部分的に減額します(保険料負担なし)。それに伴い、厚生年金を65歳から70歳までの間の希望する時点から受け取ることができ、繰下げ制度が復活します。(2007年4月実施)

- 2 離婚時等の厚生年金の分割  
女性の年金権を確保するため、離婚時等に夫の厚生年金を結婚時に遡って2分の1分つに分割することを可能とします。(2007年4月実施)
- 3 その他  
育児休業中の厚生年金の保険料免除期間延長(3歳未満までは2005年4月に実施されますが、短時間労働者への厚生年金の適用は見送られ、5年を目途に再検討となりました)。

マクロ経済スライド制の影響  
確かに保険料(率)の上限設定により、被保険者の負担には歯止めがかかります。しかしマクロ経済スライドの導入は二重の影響をもたらします。

一つは将来の所得代替率の大幅な低下です。厚生年金のモデルから外れた共働き世帯、高額所得世帯、単身者などの代替率は2025年度には40%を下回ります。また、調整・減額は基礎

年金にも適用されるので、基礎年金は基礎的生活費を賄えなくなります。

もう一つは雇用に及ぼす影響です。企業が負担する厚生年金の保険料総額は被保険者数と賃金により決まるので、今後は人員整理と非正規雇用労働者への代替が加速するでしょう。その結果マクロ経済スライド調整が働き、給付水準を引き下げ、それは保険料負担を軽減するので、相乗作用的な雇用量の縮小が予想されます。

公的年金制度への信頼の形成  
今回の改正で、国民の公的年金への信頼が確保されるでしょうか。とくに若い世代の不信感が、掛け金に見合う年金が貰えないという点にあるとすれば、給付水準の引き下げは国民の不信感をめぐつたには役立たないでしょう。保険料(率)の上限は検証もなく18.3%に設定され、所得代替率の下限もモデル世帯だけを対象とし、50%の根拠も示されていません。年金財政の「持続可能」を図るだけでは、国民の信頼は生まれません。

信頼感を再生するために、むしろ正規雇用を確保するなど保険料の増収を図るとともに、税財源を投入することにより、最低保証年金を確保することの持続可能な生活保障のための積極的な改革案の提示が必要です。そのためには、若い被保険者も公的年金制度の仕組みを理解し、年金改革に関心のあることを示すことが重要です。

# 市大・入学Navi

入試関連情報

学生募集要項(出願書類等含む)を  
配付しています!

本学入試課の窓口で11月下旬から配付しているほか、以下の方法で入手できます。

大学のホームページから請求する場合  
12月以降本学のホームページ  
(<http://www.osaka-cu.ac.jp/>)  
をご覧ください。

テレメールで請求する場合

パソコン・携帯電話または自動音声  
応答電話で簡単に請求できます。

パソコン・携帯電話なら  
(<http://telmail.jp/>)、  
自動音声応答電話なら  
06-6222-0102にアクセスし、  
資料番号「397349」を入力またはプッシュし、あとはガイダンスに従ってください。受付から2、3日で届きます。

郵便局で請求する場合

郵便局に「入学願書ゆうパックカタログ」が置いてあります。必要事項を記入のうえ、送料と振込手数料70円を添えて、郵便局窓口で申し込んでください。受付から1週間程度で届きます。



先輩からのメッセージ

経済学部経済学科  
4回生  
三浦 光広 さん

高校2年の文系・理系を選択する時から数学や歴史が得意だったので、それらを活かせる経済学部を志望していました。ゼミでは中国経済を学んでいます。経済がわかると「コース」も理解しやすいし、就職活動ではとても役に立ったと思います。受験に合格したのはセンター試験で高得点が取れていたからです。

ただ、受験生の11・12月頃はインフルエンザで全く勉強できない時期もありました。でもそれがきっかけでそれまでの勉強法を切り換えて、センター試験中心の勉強法にしたのが結果的には良かったのだと思います。

本学の入試では難問・奇問が出題されることはなく、基本的な知識・理解で充分解くことができる問題が出題されていると思います。

本学を目指す皆さんも、試験の点数や勉強の進み具合に一喜一憂することなく、基本的な問題をしっかりと解けるように勉強を続けていけば、必ず合格を勝ち取ることができると思いますので、がんばってください。

## トピックス

### TOPICS

#### 全学共通教育棟完成!

旧教養地区に、高度情報化時代にふさわしい最新教育設備を備え、授業形態に応じた適性規模の教室等を配置した全学共通教育棟が完成しました。

#### 施設の概要

工期 平成13年9月～16年9月  
規模 鉄筋コンクリート造  
地下1階地上5階  
床面積 12,485㎡  
事業費 約69億4,800万円  
施設 大講義室9、中・小講義室28  
情報処理教室4、外国語特別演習室5、図形科学演習室等



外部大階段と空中渡り廊下(中庭から撮影)

**建物の特徴**  
・基礎教育実験棟及び中庭と一体感のある空間をつくり、多目的広場として活用できる2層吹抜けの大ヒロテイ。  
・中庭から2階への外部大階段。  
・中庭を囲むコの字型学舎の移動と長大な建物と空間のアクセントとしての空中渡り廊下。

#### チカノバー博士(イスラエル)ノーベル化学賞受賞!

本学客員教授のアーロン・チカノバー博士(イスラエル)が、「コペキチン修飾系の研究」の功績により、今年度ノーベル化学賞を受賞されました。

同氏は、本学医学研究科の岩井宏教授(分子制御学)と共同研究を実施しており、日本学術振興会の著名研究者招入

い事業により、平成15年度から17年度にわたり、各年度2ヶ月程度来日されることになっていきます。(受入研究者・岩井教授)

昨年度は平成15年11月から16年1月に来日され、各種講演会が開かれたほか、本学との共同研究や大学院生に対する双方向性授業も行われました。

今年度も、平成17年2月に来日が決定しており、本学をはじめ各地でセミナーや講演会等が開かれる予定です。

## 学園あ・ら・かると

### 大阪市立大学大学祭

(銀杏祭・ぶくろつ祭)

#### 銀杏祭(第一部)

第54回銀杏祭実行委員会委員長

(工学部3回生)谷口 充宏  
皆さん、市大でどんなところだと思えますか?受験生の皆さんは、市大に入ったらこんなところじゃあんなところじゃうと頭の中で考えては、日々勉強に打ち込んでおられることと思います。そこで、すなわち「トピックス」で市大についてお話しは夢中になりたいこと

に素直に打ちこめる場所です。ですから市大には多種多様なクラブ・サークルがあります。そんなクラブ・サークルがキャンパスで自分たちの活動を主張してお祭騒ぎをする日が銀杏祭です。また、4月には新入生歓迎祭が開催されます。楽しいですよ!ぜひ、市大に入って一緒に大学祭を楽しみましょう。



II部サークル協議会議長  
(文学部4回生)上角 真紗子  
毎年11月中旬に開催されるII部の学祭「ぶくろつ祭」はII部の全サークル協力の下に企画・運営され、いつも楽しく盛り上がりつつあります。屋台はもちろんです、会場内の中央に設置されたステージ上でのライブやゲーム、学外からバンドなどのゲストを招いたりもしています。また、大阪市立大学の学生以外の方でも楽しんで頂けるよう、動物園を開催するなど、毎年色々企画しています。食べて飲んで騒いで、大学生活にはやっぱり学祭はかせないですよ!

#### ぶくろつ祭(第二部)



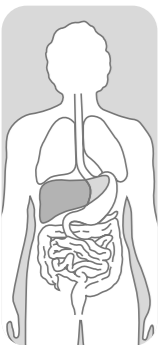
## 公開講座情報

### 市民医学講座

第89回 肝臓病の進行を防ぐためには「講師・西口修平医学研究科助教

- 【開催日】1月26日(水)
- 【時間】午後6時10分～8時
- 【対象】18歳以上の方
- 【定員】百五十名(多数の場合抽選)
- 【受講料】無料(資料代実費)
- 【会場】医学部医学情報センターホール
- 【申し込み方法】「第89回」住所氏名(ふりがな) 年齢 電話番号 返信用宛名・手話通訳希望者はその旨を記入して、往復はがきで医学情報センターに申し込んでください。
- 1月12日(水)消印有効

大阪市立大学医学部  
医学情報センター  
〒545 0051  
大阪市阿倍野区旭町1-2-7  
電話(あへのメディックス6階)  
電話(06)6344-2742  
FAX(06)6344-2765



### 文化交流センター

文化交流センターでは、大学における学術研究の成果を市民の皆様へ還元する事を目的として、様々な公開講座を年間を通して開講しています。

平成17年2月は、本学卒業生を中心とした各界の専門家による、会計・税金、まち・住宅、法律、スポーツ、マスキミの各講座を予定しています。(開講時間午後6時30分～8時の予定。)  
詳細は、文化交流センターのほか、大阪市各区役所、大阪市サービスセンター(梅田・難波・天王寺)などで配布するチラシ等をご参照ください。

大阪市立大学  
文化交流センター  
〒530 0001  
大阪市北区梅田1-2-2 600  
(大阪駅前第2ビル6階裏表紙参照)  
電話(06)6344-5425  
E-mail: bunkou2@ado.osaka-cu.ac.jp

### お知らせ

各施設の年末年始の休日  
大阪市立大学医学部附属病院  
12月29日(水)～1月3日(月)  
大阪市立大学理学部附属植物園  
12月27日(月)～1月4日(火)